

「新名神高速道路箕面トンネル施工に伴うモニタリングに関する総括」といたしまして、「新名神高速道路大阪府域 地下水流動対策 検討委員会」の委員長を務めていただきました岡山大学の西垣誠名誉教授より、下記見解をいただきました。

新名神高速道路箕面トンネル施工に伴うモニタリングに関する総括

- (1) W1、W2について地下水位の回復が確認できる。
- (2) W3、W4については、深層の水位が戻ることはないと思うが、浅層の水位に変化が見られていないことから、表層部への影響はないと判断できる。
- (3) 流量観測の結果、勝尾寺川、箕面川の流量低下も生じなかったと判断できる。
- (4) モニタリング結果を総合的に見て、箕面トンネル施工による地下水の流動対策は適切に実施されたと判断できる。
- (5) 委員会の検討結果から箕面トンネルで採用いただいた工法（ウォータータイト工法、超長尺ボーリング）は、国内で前例のない最先端の技術であり、また、国内最大規模の環境保全対策として、平成29年度土木学会技術賞も受賞しており、トンネルの施工前から現在まで継続している水文調査のデータと見比べても、今後更なる影響が発生することは考えにくい。
- (6) トンネル施工に起因すると思われる影響が発生した箇所については、これまでもNEXCO西日本により個別の対応が行われており、水文観測終了後に、影響が発生するようなことがあったとしても、これまでと同様にNEXCO西日本が適切に対応することで、委員会としても問題はないと考える。

※ W1、W2等観測位置、観測結果については、別紙参照

これまでに実施いたしました全9回の委員会結果、モニタリング結果、そして西垣誠名誉教授の上記見解を踏まえまして、委員会終了後1年が経過する2019年3月をもちまして、水文観測をすべて終了することといたします。

2019年 2月 6日

西日本高速道路株式会社 関西支社 新名神大阪西事務所